

（様式6-A） A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

日下田 大輔 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題目 Cervical angle as a possible predictor of abnormal placental position in women with endometriosis

（子宮内膜症をもつ女性における胎盤位置異常の予測因子としての子宮頸管角）

Journal of obstetrics and gynecology research (in press)

Daisuke Higeta, Yoshikazu Kitahara, Ayuko Tanaka, Akihito Morita, Tatsuya Sato, Maki Inoue, Masayuki Soda, Akira Iwase

論文の要旨及び判定理由

子宮内膜症は生殖年齢女性の約10%が罹患する頻度の高い疾患である。近年、子宮内膜症と周産期合併症、特に胎盤位置異常との間の関連が示されている。日下田氏は、重症子宮内膜症がもたらす子宮周囲の癒着・拘縮により子宮後屈が生じ、胎盤位置異常のリスクが上昇するという仮説の元、子宮内膜症と胎盤位置異常との関連、子宮内膜症が胎盤位置異常をきたす原因を調査した。その結果、子宮内膜症既往がある妊婦は、胎盤位置異常と分娩後異常出血の割合が高く、その結果は生殖補助医療と母体年齢で調整後も同様であること、胎盤位置異常のリスクは子宮内膜症の手術を受けた妊婦で高いこと、「胎盤位置異常がある」かつ「子宮内膜症既往がある」場合、子宮頸管角が小さくなることが判明した。これらから、子宮内膜症既往がある妊婦は子宮後屈が強い傾向にあり、子宮後屈が胎盤位置異常の一因となる可能性があるとの結論を導いた。

本論文は、日常臨床の疑問を端緒にした研究であり、今後も臨床と密接に関連した研究展開が期待できる内容である。論文の構成、仮説設定、解析手法、解釈と結論はいずれも妥当であり、生命倫理的手続き等も適切に行われていると判断された。審査委員からは、子宮頸管角測定の妥当性、胎盤位置異常の頻度とその原因、子宮内膜症に対する手術治療の有用性、等の質問がなされ、いずれも正確な背景知識と将来への展望を回答することができた。以上より日下田氏は、本論文に関連する研究を通して研究者としての十分な研鑽を積み、今後は独自に研究を遂行していく能力を有していると認められ、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

（審査 2024年1月29日）

審査委員

主査 群馬大学教授（医学系研究科）
救急医学分野担任 大嶋 清宏 印

副査 群馬大学教授（医学系研究科）
放射線診断核医学分野担任 対馬 義人 印

副査 群馬大学教授（医学系研究科）
医療の質・安全学分野担任 田中 和美 印

参考論文

1. Single coronary artery diagnosed in the perinatal period: A case report
(妊娠時に診断した単一冠動脈合併妊娠の一例：症例報告)
Taiwanese Journal of Obstetrics and Gynecology 62(4):562-565, 2023
Tanaka A, Higeta D, Arai S, Ishibashi Y, Kyoya T, Iwase A.

2. A Case of Cornual Pregnancy after Ipsilateral Salpingectomy for Isthmic Pregnancy (両側卵管切除術後に、子宮峡部に妊娠した一例)
Gynecology and Minimally Invasive Therapy 9;12(1):48-50, 2023
Banzai C, Matsumoto A, Higeta D, Shinozaki Y, Murata T, Mitsushita J, Soda M.

3. Pregnancy in hereditary sensory and autonomic neuropathy type V: A case report and literature review (遺伝性感覚・自律神経障害V型合併妊娠の一例：症例報告および文献レビュー)
Taiwanese Journal of Obstetrics and Gynecology 61(1):115-117, 2022
Higeta D, Morita A, Uehara R, Inoue M, Kameda T, Iwase A.

4. A pregnant woman with severe dyspnoea (重症呼吸障害を認めた妊婦の一例)
Breathe (Sheff) 18(2):220012, 2022
Kanbe M, Yatomi M, Wakamatsu I, Uno S, Hanazato C, Aoki-Saito H, Masuda T, Yamaguchi K, Kasahara N, Miura Y, Tsurumaki H, Hara K, Koga Y, Sunaga N, Higeta D, Kameda T, Hisada T, Maeno T.

5. Postpartum unscarred uterine rupture caused by placenta accreta: A case report and literature review. (産褥期に発生した、癒着胎盤による未癒痕子宮破裂の一例：症例報告および文献レビュー)
Clinical Case Reports 24;9(3):1587-1590, 2021
Okaniwa J, Higeta D, Kameda T, Uchiyama Y, Inoue M, Iwase A.

6. Live birth by cesarean section after rupture of uterine cornua in simultaneous corneal and intrauterine pregnancies. (異所性妊娠による子宮峡部破裂後に、帝王切開で生児を出産した妊婦の一例)
Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 47(8):2773-2776, 2021
Banzai C, Hiraishi H, Higeta D, Tsukagoshi N, Murata T, Soda M.